



從四位勳四等高峰讓吉

敍勳ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十一年七月二十五日

内閣總理大臣男爵加藤友三郎



内閣

内閣外史第一九七号



小冊 第一九八 號

起 案 大正 五年 七月 三十 日

裁可 決定 十 年 七月 廿 五 日

施行 年 月 日

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官



賞勳局總裁上申

從四位勳四等高峰讓吉儀ハ明治十六
年四月農商務省御用掛トシテ出仕以
來諸官ヲ歴任シ我農業界ニ盡ス所
多ク更ニ合衆國ニ渡リ化學工業ニ関

内閣

スル研究ヲ積ミタカジャスターゼ及アドリナリン
等ノ如キ世界的發明ヲ為シ又久邇宮
邦彦王殿下同妃殿下御渡米ニ際シ
歡迎ノ為紐育市廳委員ヲ囑託セラレ
其ノ他各種ノ委員トシテ其任務ヲ遂行
シ日米親善ノ増進ニ貢獻シ又獨逸
ノ排日氣勢ヲ防壓スルニ盡シ其ノ功績
顯著ナル者ニ有之候處紐育ニ於テ病
氣ニカカリ本月二十二日再ビ起ツ能ハ
サルニ至リ候趣ニ付此ノ際右功績ヲ

録セラレ特ニ同日付ヲ以テ勲三等ニ叙
シ瑞寶章ヲ授ケラレ度此段先裁
ヲ仰ク

内閣

賞勳局第二六一號 外勤 一四四三 大正七年七月二十五日

大正七年八月十四日 内閣賞勳局

内閣書記官

内閣總理大臣

賞勳局總裁



勲四位

勲四位勳四等高峰讓吉儀ハ明治十六年四月二十七日農
商務省御用掛ニ出身以來諸官ニ歴任シテ農商務
省專賣特許局長トシテ後東京人造肥料會社ヲ
設立シテ我農業者生産界ニ一新機軸ヲ劃シ更ニ
北米合衆國ニ渡リ化學工業ニ関スル研究ヲ積
其發見新法ニ就キ米國政府及英佛諸外國
ノ特許權ヲ獲得センモノトシテ就中澱粉消化劑

賞勳局

タカシマスターゼ驅血及止血藥アトリリンノ如キハ世
界的發見トシテ人口贈矣スル所ナリ又同甲午年五
月紐音日本協會創立ニ當リ名譽副會長ニ
推選セラレ或ハバドソン、フルトンニ記念會ニ御臨場
アラセラルタ久通宮邦彦王殿下及同妃殿下
歡迎ノ為メ同市廳ヨリ委員ヲ屬托セラレ各般
ノ便宜ヲ圖リタル廉不其爾來數次英米諸國
ニ開催セル藥學醫學或ハ理化學等ノ諸委員
トシテ參列其任務ヲ遂行シ益々日米兩國間ニ
於タル名望家トシテ重キヲ效シ能ク日米親善

大正七年八月二十日



内務省

内閣總理大臣

賞勳局總裁



從四位勲四等高峰讓吉儀ハ明治十六年四月二十七日農
 商務省御用掛ニ出身以來諸官ニ歴任シテ農商務
 省專賣特許局長トシテ後東京人造肥料會社ヲ
 設立シテ我農業者生産思ニ一新機軸ヲ劃シ更ニ
 北米合衆國ニ渡リ化學工業ニ関スル研究ヲ積
 其及後見新法ニ就キ米國政府及英佛諸外國
 特許權ヲ獲得セシモノトシテ就中澱粉消化劑

賞勳局

タカシメスターセ驅血及止血藥アトリリシノ如キハ世
 界的發見トシテ人口贈矣スル所ナリ又同四十年五
 月紐育日本協會創立ニ當リ名譽副會長ニ
 推選セラレ或ハバドソン、フルトンニ記念會ニ御臨場
 アラセラルル久通宮邦彦王殿下及同妃殿下
 歡迎ノ爲メ同市廳ヨリ委員ヲ囑托セラレ各般
 便宜ヲ圖リタル康不斯爾來數次英米諸國
 ニ開催セル藥學醫學或ハ理化學等ノ諸委員
 トシテ參列其任務ヲ遂行シ益々日米兩國間ニ
 於タル名望家トシテ重キヲ效シ能ク日米親善

ノ増進ニ貢獻シ又這般戦後ニ當リ独逸ヲ排
日ノ氣勢ヲ揚ケ勢威猖獗ヲ極メントスルニ方リ
通信社ヲ興シ新聞紙ヲ刊行シ之カ防壓ニ盡
カシ帝國政府ノ為ニ貢獻スル所不鮮其功績頗
著ナルモノ有之候慶北米合衆國紐育ニ於テ
病氣ニ罹リ本月二十二日卒去致候趣ニ付テハ此
際右功績ヲ録セラレ特ニ同日附ヲ以テ勲三等ニ
叙シ瑞寶章ヲ授ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

急

人機密第九〇號

大正十一年七月二十四日

外務大臣官房人事課長 鮭延 信道

賞勳局書記官 横 田 郷 助 殿

高峰讓吉敘勳ノ件

本年三月十六日人機密第二六號ヲ以テ正五位勳四等高峰讓吉ニ對
スル危篤敘勳ニ關シ當省大臣ヨリ上奏相成居候處其後同人ノ病狀
ハ一進一退ノ狀況ニ有之候ヒシモ最近又危篤ニ瀕シ^{ニテ}再ヒ起ツ能ハ
サルニ至リ候條右敘勳ノ儀至急詮議方御取計相成度此段申進候也

外 務 省

(已 兼 用 紙)

裏面白紙

勳三等瑞寶章

正五位勳四等
工學博士
藥學博士
高峰讓吉

右者明治十二年工部大學校化學專門部卒業同十三年一月應用化學修業ノ爲メ三年間英國留學ヲ命セラレ「グラスゴー」及「アンダソニアン」兩大學ニ於テ應用化學ヲ研究シ次テ同十六年四月二十七日農商務省準奏任官御用掛仰付ラレ翌年五月北米合衆國「ルイジアナ」洲「ニウオルレアンス」府ニ於テ萬國工業博覽會開催セラルルヤ事務官トシテ差遣セラレ諸般ノ事務ニ鞅掌シ同十八年十一月十九日專賣特許所商標登録所長代理ヲ命セラレ次テ農商務省專賣特許局次長ニ進ミ同省技師ニ任シ高等官四等ニ敍セラレ同二十年三月一日特ニ在

官ノ儘自費海外巡回ヲ認許セラレ歐米各國ヲ巡歴シ歸朝ノ後東京人
造肥料會社ヲ設立セリ是本邦ニ於ケル人造肥料ノ嚆矢ニシテ我農業
生産界ニ一新機軸ヲ劃スルニ至レリ更ニ二十三年十一月北米合衆國
ニ渡リ益々化學工業ニ關スル研究ヲ積ミ同人ノ發見新法ニ就キ米國
政府ノ特許ヲ得タル事十二回英佛諸外國ノ特許權ヲ獲得セル實ニ數
十件ノ多キニ及ヘリ就中澱粉消化劑「タカジヤスターゼ」驅血及止
血藥「アトリナリン」ノ如キハ世界的ノ發見ニシテ遍ク人口ニ膾炙
スル所ナリ斯クテ明治三十二年三月二十七日工學博士ノ學位ヲ授與
セラレ次テ三十九年十月藥學博士ノ學位ヲ受ケ又積年ノ功ニ依リ明
治三十九年四月十八日勳五等雙光旭日章ヲ敘賜セラレ同四十年五月
紐育日本協會創立ニ當リ名譽副會長ニ推選セラレ紐育ニ於ケル「ハ

ドソン、フルトン」記念祭ニ御臨場アラセラレタル久邇宮邦彦王殿
下及同妃殿下歡迎ノ爲メ同市廳ヨリ委員ヲ囑托セラレ各般ノ御便宜
ヲ圖リタル廉不尠爾來數次英米諸國ニ開催セル藥學醫學或ハ理化學
等ノ諸委員會ニ我政府ヨリ委員トシテ參列ヲ命セラレ其任務ヲ遂行
シ大正四年十一月十日勳四等旭日小綬章ヲ敘賜セラレ益々日米兩國
間ニ於ケル名望家トシテ重キヲ效シ能ク日米親善ノ増進ニ貢獻シ這
般ノ戰役ニ當リ米國カ參戰スルニ際シテハ陰ニ陽ニ帝國ノ爲ニ盡瘁
シタル功績顯著ナルモノ有之候處今般病氣ニ罹リ目下危篤ニ瀕シ候
ニ就テハ前述多年ノ功勞ヲ錄セラレ此際特ニ頭書ノ通敘勳被仰出候
様仕度此段謹テ奏ス

大正十一年三月十六日

外務省

外務大臣伯爵 内田 康

哉



上奏書
不物明
望有之好之田長
(育音)

工學博士藥學博士高峰讓吉ノ米國ニ在留スルコト既往多年ニ亘リ其間日米兩國ノ間ニ在リテ彼我ノ親善ヲ圖ルヲ以テ已レカ念トシ曩ニ明治四十年五月米國ニ於テ萬國大博覽會ヲ開設シ且各國陸海軍代表者ヲ招待シ萬國陸海軍祝典ヲ開催セリ我國ハ陸軍大將男爵黒木爲楨及海軍中將伊集院五郎ヲシテ參列セシメタルニ際シ同博士ハ歡迎委員會副會長トシテ米國名士ノ間ニ斡旋シ克ク彼我ノ聯繫ヲ計リ尙機會アル毎ニ益々其交誼ノ増進ニ盡瘁セリ又近來幾多ノ本邦官吏實業家、學者等ノ漫遊ニ或ハ視察ニ或ハ學術ノ研究ニ渡米スルニ當リ其米國人トノ親交アル地位ヲ利用シ自ラ先シテ米國知名ノ士及有力ナル會社銀行等ニ紹介シ以テ彼ノ諸名士トノ友交ニ均霑セシメサルハ無ク實ニ博士ノ努力ノ偉大ナル賜ト謂サルヘカラス殊ニ這般ノ戰役

(已號用紙)

裏面白紙

外務省

ニ際シ獨逸ハ政策上米國ニ於テ種々ノ宣傳ヲ逞フシ又各種ノ機關ヲ利用シ我國ヲ阻害シ排日ノ氣勢ヲ揚ケ勢威猖獗ヲ極メントスルニ方リ博士ハ深ク之ヲ憂慮シ彼ノ地ニ於テ東西通信社ヲ興シ米國著名ノ士ト相計リ機關新聞ヲ刊行シテ彼ノ政策ヲ防壓シ直接帝國政府ノ爲ニ貢獻スル所アリタルト共ニ兩國ノ交友益々深厚ナラシメタリ、日米協調ノ諸機關ニシテ同人ノ關聯セサルナク近クハ鋼鐵王イー、エツチ、グリー氏ノ渡日セルニ際シジャパン、アドヴァタイザー社社長フライシユアー^ル及ゲリー氏等トノ會見ニ於テ日米人ノ接觸ヲ滋クシ相互ニ完全ナル理解ヲ求メントシ澁澤男爵、金子子爵、日置益等ト相圖リ日米協會ノ成立ヲ視ルニ至リタル等滯米實ニ三十有餘年終始一貫日米親善上ニ效シタル功績没スヘカラサルモノアリ

急

内閣御用
五七号

人機密第二六號

大正十一年三月十六日

外務大臣伯爵 内田 康



内閣總理大臣子爵 高橋 是清 殿

正五位勳四等高峰讓吉敍勳ノ件

正五位勳四等高峰讓吉敍勳ノ儀別紙ノ通上奏致候間至急可然御取計
相成度此段申進候也

外務省

裏面白紙

大正十一年三月十七日

3/2